



クリスマスまでに、あと3000人の
チャイルド・スポンサーを募集しています



5歳の誕生日を迎えられず命を落とす子ども 520万人¹
紛争や迫害などによって家を追われた子ども 推定3,500万人²
厳しい環境で生きることを強いられた、こんなにも多くの子どもたち。

¹ UNICEF, WHO, World Bank Group and United Nations, Levels and trends in child mortality 2020
² UNHCR, Global Trends 2020

ワールド・ビジョン・ジャパンは、11/1(月)~12/25(土)、厳しい環境で暮らす世界の子どもたちに支援を届けるため、「見たい未来を。さあ、一緒に。」クリスマスキャンペーンを実施します。(このキャンペーンに込めた想いを、P2でご覧いただけます) 期間中、3000人のチャイルド・スポンサーを大募集するとともに、気軽に参加いただけるオンラインイベントやプレゼント企画等も準備し、より多くの皆さまにご参加いただければと願っています。1人でも多くの子どもたちが夢見た未来を歩んでいけるよう、ぜひ、このキャンペーンにご参加ください!

今、あなたにできること

1 チャイルド・スポンサーになる

より多くの子どもたちに支援を届けるため、新しくチャイルド・スポンサーになってくださる方、もう1人分の支援を追加くださる方からのご連絡をお待ちしています。

2 クリスマス募金に協力する

紛争や災害の影響を受ける子どもたちに、今日の命をつなぐ水や食糧を届けるための募金です。

3 お友だちに紹介する

お友だちやご家族にチャイルド・スポンサーシップについて伝え、支援の輪を広げていただけませんか?

お友だちとチャイルド・スポンサーシップ



LINEやSNSでカンタンにメッセージが送れます



4 「クリスマス募金箱」を使う

クリスマスまでの24日間、アドベントカレンダーのように毎日一つずつ窓を開けて募金するクリスマス募金箱をプレゼント。家族や友だちとも一緒に取り組みます。

5 オンラインイベントに参加する

ワールド・ビジョンのスタッフが、支援地域の様子や活動内容についてご報告します。キャンペーン期間中、定期的に開催予定です。

今、あなたにできる
5つのこと。
参加方法はこちら



あなたの「いいね」や「シェア」も力になります!



チャイルド・スポンサーシップ、
募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み ▶ 0120-465-009

WEBからのお申込み ▶

World Vision News No.198 2021年11月発行 ワールド・ビジョンニュース

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2ハーモニータワー3F TEL 03-5334-5351 FAX 03-5334-5359

※新型コロナウイルス感染拡大防止への対応として事務局機能を縮小し、電話受付時間を短縮している場合がございます。ご了承ください。

dservice@worldvision.or.jp www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づき世界の子どもたちを支援している国際NGOです

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision News

見たい未来を。さあ、一緒に。

見たい未来を。
さあ、一緒に。

198

2021年冬号
ワールド・ビジョンニュース

見たい未来を。 さあ、一緒に。

新型ウイルスとの攻防、終わらない紛争・災害、深刻化する人道危機
ままならない現実に、心いたむ事実
どこを探しても 魔法の杖は見つからない

しかし、よりよい明日を切り拓くため奮闘する人の姿に
自由と権利のために立ち上がる人々の姿に 心揺さぶられた

想いの力と人間の可能性
そして、そこに生まれる希望

子どもたちには 見たい未来がある
私には 見たい未来がある
あの子に見せたい 未来がある
チャイルド・スポンサーシップを通じて 夢見た未来を現実に。

見たい未来を。さあ、一緒に。
チャイルド・スポンサーシップ



ゴミ山で働くミナちゃん

未来を夢見る少女、ミナちゃん

バングラデシュのスラムで暮らすミナちゃん（12歳）は、お母さんと2人で6家族を支えています。毎朝5時に市場に行き、落ちていた食べ物を拾ったり、店をまわって物乞いをします。店の人たちは、嫌な顔をするだけでなく、時にはひどい言葉をミナちゃんにあびせます。でも、どんなに怒鳴られても無視されても、「何かください」と繰り返します。スラムの家で待つ幼い妹たちのため、家族みんなが今日食べる物を得るために。

午後は、近くのゴミ山へ行き、売れそうな物を探して歩きます。ガラスや金属が落ちている危険な場所。そしてここは、暴行や誘拐が頻りに起きる場所でもあります。でもミナちゃんは、暗くなるまで働いて夜道を一人で帰ります。

10歳の頃、疲れ切った帰り道で、車にひかれて全身に大けがを負い

ました。お母さんは、帰らないミナちゃんを探して泣きながら歩きました。見つかった時の傷だらけの姿が忘れられないといいます。それでもミナちゃんは、翌日また、足を引かずして市場に向かいました。午後は、動かせる方の手でゴミを拾いました。家族のために働かなくては、という一心でした。「すぐつらい。本当はもう行きたくない。悪い人が身体を触ってきたりすることもあって怖いです。それでも行かなきゃいけないから、悲しくなります」

厳しい現実と闘いながらも、ミナちゃんは未来を夢見ています。「学校の先生になりたい。先生になって、みんなもわたしみたいになれるんだって、子どもたちに教えてあげたい」それは、厳しい現実を生きる子どもたちに希望を見せてあげたいという、せつなくて優しい夢でした。



沢山の品物と大きな大人でごったがえす市場を歩き回り、もらえそうな物を探します



家族の食事の支度をするのもミナちゃんの仕事です



ミナちゃんの描く未来は、学校の先生になること

子どもに見せたい未来がある— 2人のお母さんの願い

子どもと同じくらい、いえ、それ以上に未来を夢見ているお母さんがいます。自力で抜け出すことが難しい貧困の連鎖の中、その苦しい胸の内を明かしてくれたのは、カンボジアとルワンダに住む2人のお母さんです。

「私は、良い暮らしをしたいとは思いません。何もありません。食べなくたっていい。ただ、子どもたちに、良い教育を受けさせてやりたい。それが私の一番の願いです」辛い現実を変える力を身につけて幸せになって欲しい、それだけを願っているのに…。今日も愛する娘（10歳）と漁師の仕事に向かわなくてはなりません。（カンボジア）



「夫が亡くなって、すべてが変わりました。子どもたちは十分食べることもできず、大好きなお父さんにも会えません。子どもたちに学校を続けさせてやれたらと願っていました。大切なことだと分かっていたし、きっと新しい扉が開くと思うから。でも、それができないのです…」7人家族が生きていくため、子どもたちと一緒に茶畑で働く日々です。（ルワンダ）



夢見た未来を生きる少女、チャニちゃん

厳しい暮らしから抜け出し、夢見た未来を生きる少女がいます。毎日の食事にも事欠き、学校にも通えていなかったカンボジアの少女、チャニちゃん（9歳）です。彼女は今、「チャイルド・スポンサーシップ」の支援により、ずっと通いたかった学校で勉強に励んでいます。もちろん、毎日きちんと食事をとることもできています。放課後は子どもクラブの活動にも参加し、近所の子どもたちに色々なことを教えてあげています。学校に行くという夢を叶えたチャニちゃんには、新たな夢があります。それは、先生になること。勉強やクラブ活動を頑張るチャニちゃんは、その夢に向かって着実に歩き始めています。



クリスマスまでに、あと3000人のチャイルド・スポンサーを募集しています

貧困から抜け出せず、ミナちゃんのように厳しい生活を強いられる子どもは、世界で約3億5,600万人*。そのような子どもたちが未来を夢見て健やかに成長できるよう、子どもが住む地域全体を継続して支援するプログラムが、チャイルド・スポンサーシップです。ワールド・ビジョン・ジャパンは、未来を夢見る多くの子どもたちに支援を届けるため、「見たい未来を。さあ、一緒に。」キャンペーンをクリスマスまで実施します。期間中、チャイルド・スポンサーシップに参加して下さる3000人のチャイルド・スポンサーを大募集します。子どもたちの見たい未来、それはきっと、あなたが、そして世界が見たい未来にもつながるはず。一人で何もかもを変えることはできませんが、一人ひとりの力が積み重なれば、世界は変わっていきます。今年のキャンペーンへの応援を、どうぞよろしくお願いいたします！

（キャンペーンへの参加方法等の詳細は、裏表紙をご覧ください）

*UNICEF, WORLD BANK GROUP: Global Estimate of Children in Monetary Poverty: An Update, 2020

私たちの、「チャイルド・スポンサーシップ」への想い



現在、ワールド・ビジョン・ジャパンのチャイルド・スポンサーシップには、約 5 万人の皆さまが参加してくださっています。過去に受けた親切を社会に還元したいという個人の方、子どもたちの学びに活かしたいという教育関係の皆さま、ほかにも、会社で、教会で等、様々な形でご参加くださっている皆さまがいます。そんな方々に、支援に対する想いや喜び、支援を続ける理由等を自由に語っていただきました。

個人



高田 京子 様

インターネットの広告をきっかけにワールド・ビジョンのことを知り、チャイルド・スポンサーになりました。最初に紹介されたベトナムの女の子には、支援地訪問ツアーに参加して実際に会うことができました。自分たちの支援したお金が、こうして形にのこされているんだと分かって感無量でした。ほかの団体にも支援していますが、ワールド・ビジョンは支援金はどう使われたか報告書でしっかり報告され、安心です。これまで何人ものチャイルドとの出会いとお別れがありましたが、自分と主人にとって思い入れのある国、インドネシアのチャイルドを支援することができ、地域での活動を終了するところを見届けることができたことも、嬉しかったです。14年以上にわたって支援を続けているのは、ワールド・ビジョンのスタッフの皆さんがとても一生懸命にやってくださっているのを感じるからです。大変な思いをされていると思いますが、めげずに頑張っていただけだからと思います。



大尾 那奈子 様

海外で生活したことがあり、困ったときや苦しいときは、たくさんの方が助けてくれました。チャイルド・スポンサーシップを知り、その恩返しを別のかたちでできるのではと思い、支援を始めました。チャイルドからのお手紙や成長報告書がポストに届くと、どんなに疲れているときでも、元気をもらいます。世界の遠く離れた国やその地域の人と繋がっていることを感じ、嬉しい気持ちになります。支援を始めたときは独身でしたが、結婚、そして3人の子どもを出産しました。子育てや仕事、家事に追われる毎日で、世界に目を向けることが難しくなりがちです。そんな時、お手紙などが届くと、日常から離れ、世界に目を向けることができます。私には、その時間が、世界と繋がれる大切な時間になっています。子どもたちが世界に関心を持つきっかけにもなっているので、これからは子どもたちと一緒に支援を続けていきたいと思っています。



佐野 歌栄人 様

チャイルド・スポンサーシップを始めた理由は、社会人になり日本で豊かに暮らせる感謝をどこかに寄付と言う形でしたいと思ったからです。いろいろな寄付先を考え、実際に寄付してみましたが、ワールド・ビジョン・ジャパンの活動を一番信頼しています。チャイルドからも手紙が届き、役に立っていることを幸せに感じています。自分はクリスチャンなので、10分の1 献金もワールド・ビジョンにしています。自分は直接的に世界の貧しい方たちのために働けない分、金銭的な面で応援したいと考えています。これからもワールド・ビジョンを応援、支援し続けたいと考えています。

学校

捜真小学校 様

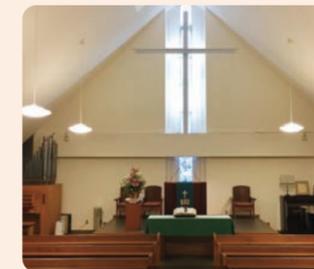
捜真小学校では、学年毎に一人のチャイルドを児童の献金によってサポートしています。6年生が卒業すると新1年生が支援を引き継ぎます。校内に「ワールド・ビジョン・ブース」を設け、児童が調べ学習した内容をポスターにまとめ掲示しています。また、礼拝ではチャイルドのことをお祈りし、誕生日やクリスマスにはシール等を持ち寄ってカードを作って届け、『もう一人のクラスメート』の成長とともに喜んでいます。



教会

横浜緑園キリスト教会 様

ワールド・ビジョンの働きを知った教会員の熱い思いからサポートを開始しました。教会全体でその思いを共有しサポートを継続しています。子どもたちの成長、子どもたちが住む地域全体の教育・保健衛生・水資源開発・経済開発・農業など継続的支援のためにサポートできること感謝です。手紙や報告から見える、それぞれの環境の中で頑張っている子どもたちが続けて勉強できますよう願います。



企業

株式会社レントラックス 様

75人のチャイルドを支援。社員がそれぞれ1人ずつチャイルドとの手紙交流を担当しています。それぞれのデスクにチャイルドの写真を飾り、成長を楽しみにしています。

RENTRACKS

有限会社香取運輸 様

関連会社とあわせて計59人のチャイルドを支援。CSR活動として社員にもチャイルド・スポンサーシップについて共有するほか、ワールド・ビジョン・ジャパンからの感謝状を社内に掲示し、来客者にも紹介しています。



新しい地域開発プログラムをご紹介します！

いっしょに幸せになろう。
チャイルド・スポンサーシップ



3分でわかるチャイルド・スポンサーシップ

チャイルド・スポンサーシップについて、ご支援者の皆さまからよくいただくご質問をクマネコが教えてくれるコーナーです。今回は、新しくチャイルドをご紹介しますことになった地域開発プログラムをご紹介します。

2021年から、アジアのベトナムとアフリカのタンザニア、2つの新しい地域開発プログラムのチャイルドをご紹介しますことになりました！今回は担当スタッフに質問していききたいと思います。ベトナムを担当している村井スタッフ、タンザニアに駐在中の大沢スタッフ！地域について教えてください。



村井

ベトナムでは、首都ハノイから南西へ約 85km のホアビン省で、ダバック地域開発プログラムが始まりました。ダバック地域はホアビン省の中で最も貧しい地域です。地域住民の主食は米で、副菜として魚、鶏、アヒル、卵、豚、野菜などを食べています。日本と似ていますね。



大沢

タンザニアでは、商業都市ダルエスサラームから西へ約 850km のタボラ州ウエイ県ルテンデ地区で、ルテンデ地域開発プログラムが始まりました。地域住民の主食はウガリ（トウモロコシの粉を練ったもの）で、豆や野菜を副菜として食べます。肉や米はお祝いの時に食べます。ウガリは日本人には馴染みがないですね。

ダバック地域とルテンデ地域では、どんな支援活動が行われますか？



村井

ベトナムのダバック地域では、栄養改善と子どもの保護の分野で活動を行います。5歳未満の4人に1人が発育不全のため、母親たちに栄養や保健に関する正しい情報や知識を伝えていきます。また、山岳地域で、中国雲南省から流れる川の流域に位置しているため、子どもたちが安全に遊べる場所が少なく、溺れたりけがをしたりしています。子どもクラブを設立し、さまざまなリスクから身を守るスキルを学ぶ研修や、安全に遊べる場所の提供を行います。



地域の様子。山間に位置しています



大沢

タンザニアのルテンデ地域では、生計向上、子どもの保護、保健・栄養改善の分野で活動を行います。多くの住民が農業と畜産を営んでいますが、収入が少なく、子どもが働かざるを得ない家庭も少なくありません。また、早婚や10代での妊娠、体罰なども問題となっています。子どもの権利を守るための啓発や、農業技術や販売方法の改善に取り組んでいます。また、病気や栄養不良を抱えている子どもも数多くいます。保護者への保健・栄養に関する啓発や、医療従事者の知識や実践能力の向上を行います。



地域の子供たち。茅葺き屋根の家に住んでいます

チャイルド・スポンサーシップにより、ベトナムのダバック地域やタンザニアのルテンデ地域に住む子どもたちがより良い未来を築けるよう、子どもたちやその家族、地域の人々のために支援活動が行われるんですね！



ダバック地域（ベトナム）とルテンデ地域（タンザニア）のチャイルド・スポンサー大募集！

これからの支援活動を通して地域がどう変わるか、ともに歩みながら見守っていただけませんか？

こちらのQRコードからお申込みいただけます。申込フォームのメモ欄に「●●(国名)の新しい地域希望」とお書きください。
(例) ベトナムの新しい地域希望



緊急人道支援 / 拡大する食糧不足 ~食糧支援の現場から~

世界各国が取り組む SDGs（持続可能な開発目標）には、2つ目の目標として、2030年までに「飢餓をゼロに」があげられています。しかし今、この目標達成が危ぶまれています。

農業技術や流通の仕組みが改善され、各国の努力により世界の飢餓人口は緩やかに減少していましたが、しかし2014年以降は、再び増加に転じています。昨年からの新型コロナウイルス感染症の大流行も追加要因となって、これまで食べることで生きていた人々が飢餓に陥るケースも増加し、現在、世界で7億2,000万人以上が飢餓に直面していると推計されています。特にアフリカでは今や5人に1人が飢餓の危機に瀕していると言われています。こうした飢餓の拡大をもたらしている要因には、どのようなものがあるのでしょうか。

出典：FAO、ユニセフ、WFP他、世界の食料安全保障と栄養の現状 2021
WFP, Global Report on Food Crises - 2021



栄養センターを訪れたエリザベスさん。「息子のオカムは深刻な栄養不良と診断されて、もう1年近くこのセンターで支給される栄養補助食で命をつないでいるのです。」と話す。(南スーダン)

飢餓の拡大をもたらす3つの要因(3つのC)

1 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)の大流行

感染症の封じ込めのため、集会や外出の禁止のように、日々の行動に制限が課せられるようになりました。その結果、特に日雇い労働などに従事していた人々の仕事と収入が途絶え、これまで買うことができた食べ物が手に入らず、十分な食事をとることができなくなっています。

2 気候変動による自然災害の発生 (Climate Change)

温暖化の進行により、大雨・干ばつ等の発生頻度が高くなり、またその規模も大きくなっています。農作物が育たない、また収穫期に大雨で流されてしまう等、十分な収穫が得られない地域があります。収穫量が減り食料価格が高騰すると、これまでよりも少ない量しか買うことができなくなります。

3 終わらない紛争 (Conflict)

独立後も情勢が不安定な南スーダンや、10年を超えるシリア危機等、紛争が長引くことで難民・避難民の数が増え続けています。難民・避難民への支援活動に必要な資金も不足し、例えばウガンダの難民居住区では食糧配給量の約30%削減を余儀なくされるケースもあります。(出典：WFP)

難民居住区の食糧事情



子どもたちの食事を見守るマグダレナさん

「毎日6時間かけて薪集めをするのです。でも、料理するための食材は2週間前に尽きてしまいました。子どもたちは、1日1回の栄養強化粥等で食べつないでいます。最後に食事をしたのは24時間前です。次はいつ食べられるかわかりません。支給された食糧がある間は私が食事の支度をしますが、たいていは5人の孫たちの分を用意して、私は子どもたちの食べる様子を眺めて過ごします」(ウガンダの難民居住区のマグダレナさん 60歳)



食糧配布の様子。密集を避けるため、距離を開けて順番を待つ

ワールド・ビジョンの取り組み



多くの子どもたちにとって、1日1回のお粥が、唯一の食事です。なかには、このお粥も逃してしまい、1日何も食べずに過ごす子どもたちもいます

ワールド・ビジョンでは、紛争や気候変動に加え感染症の影響も受け、ぜい弱な立場におかれた人々へ食糧支援を続けています。例えば難民居住区では、子ども向けの栄養強化粥を提供しています。市場や商店等、品物の流通がある地域では、各世帯が必要な食材を選択できるよう、現金やパウチャー（引換券）支給を行います。現金やパウチャーは、食糧の現物支給に比べて、輸送や配布のコストを低く抑えられ、より多くの人々に支援を届けることができます。受け取る人が自ら必要とするものを選択し、家族のために食事を用意することは、極限の状況の中で日常生活を取り戻す助けとなり、人々の尊厳を守ることにつながります。

おなかを空かせた子どもたちに、命と未来を守る食糧を届けるための募金にご協力ください！

ワールド・ビジョン クリスマス募金



企業連携
株式会社ポケモン
多様性を受け入れる公平な社会の実現を目指して

株式会社ポケモンからの寄付により、日本、台湾、タイ、シンガポールでの支援事業を実施しています。この寄付は、同社グループが世界で行う社会貢献活動の一環として行われたものです。

日本では、「多様性を受け入れる公平な社会の実現」をテーマにした教材を作成・活用し、日本に住む子どもたち（小学生～大学生）へのグローバル教育を実施しています。今年8月にオンラインで開催した「ワールド・ビジョン・サマースクール」には小学4～6年生171名が参加。「子どもの権利条約」や世界の子どもたちのストーリー、自分自身の経験に照らしながら、みんな「同じ権利を持っているけれど、みんな「違う・多様性がある」という内容に展開し、多様性を受け入れ、公平な社会を実現するために、自分の中にある「決めつけスイッチ」をオフしてみよう、と語りかけました。難しいテーマでしたが、参加した子どもたちは真剣に受け止め、チャットボックスにも「差別はいけない」「自分にも偏見があるかも」など、まっすぐなコメントがあふれていました。



小学生171名を迎えてオンライン開催したワールド・ビジョン・サマースクール

多様性テーマの授業のご依頼を受け付けています

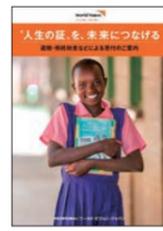
このグローバル教育で作成した小学生向け教材は、ワールド・ビジョン・ジャパンのHPからダウンロードが可能です。また、オンライン・対面授業（小学生～大学生）も実施しています。ご関心のある方は、お気軽にお問い合わせください。

資料のご請求・お問合せは
TEL: 03-5334-5356
Eメール: school@worldvision.or.jp

遺贈寄付
「最後の社会貢献」として注目が高まる遺贈



「遺贈」は、遺言によって財産の一部またはすべてを特定の個人や団体に無償で譲渡することです。終活として遺言の準備をする人が増加していることや、寄付による社会貢献意識の高まり、相続人不在といった背景から、近年、「最後の社会貢献」として注目が高まっています。ワールド・ビジョン・ジャパンでも、遺贈を検討されている方や、実際に遺言書を準備されている方からのご相談・お問合せをいただいています。「使途について相談したい」「専門家を紹介してほしい」など、ささいなことでも構いませんので、どうぞお気軽にご相談ください。温かい想いを実現させていただきたく、スタッフが伴走いたします。



資料のご請求・お問合せは
TEL: 03-5334-5355
Eメール: donation@worldvision.or.jp

詳しいパンフレット（無料）もご用意しています

お引越しされていませんか？ご連絡お待ちしています！

チャイルドからの手紙や成長報告、グリーティングカード、そして寄付金控除等に必要の領収証、どれも世界に一通しかない大切な郵送物です。確実にお手元にお届けできるよう、お引越しされた方やこれからお引越しの予定がある方はワールド・ビジョン・ジャパンまでご連絡ください。2021年領収証のお届け先は、12月20日までにご連絡いただいたご住所になります

マイワールド・ビジョンから簡単にご変更いただけます。

ログイン後、「登録情報の確認、変更」より手続きください。

2021年の領収証は2022年1月21日に発送予定です

2021年1月1日から2021年12月31日までに当団体が受領したご支援金の領収証を2022年1月21日に皆さまへ発送予定です。クレジットカードによる寄付はVISA、MASTERCARD、セゾンカードの場合は2021年11月末日までの寄付が、JCB、AMEX、ダイナースクラブの場合は2021年10月末日までの寄付が対象となります。また、コンビニエンスストアをご利用の場合で、2021年領収証の領収金額に寄付を含めることをご希望の場合は、2021年12月10日までをお願いします。当団体は東京都より「認定NPO法人」として認められており、皆さまからのご支援金は、確定申告によって税制上の優遇措置が受けられ、最大40%が控除されます。（年末調整では寄付金控除等を受けることはできません）領収証が届きましたら、確定申告まで大切に保管してください。

**世界の子どもたちに“よろこび”を贈る
 クリスマス募金箱を先着3,000名にプレゼント**

「クリスマス募金箱」は、クリスマスを待ち望む12月1～24日までの間、毎日一つずつ好きな窓を選んで開け、硬貨を入れていく募金箱です。窓を手前にめくると、ふしぎな生きものたちが待っています。集めた募金は世界の子どもたちの水・食糧支援等に使用させていただきます。こちらのQRコードからご請求いただけます



ワールド・ビジョン・ジャパンのスタッフが教会を訪問しお話しします

WVJのスタッフが教会を訪問し、教会学校、中高生会・青年会・婦人会・壮年会、各種集会等で、世界の子どもたちの現状や、支援活動の仕組み・成果等をお話します。まずはお気軽にお問い合わせください fd@worldvision.or.jp

世界に思いをはせて Vol.9.

事務局長 木内 真理子

友だちと遊べること。食べ物があっておかわりもできること。みんなが正直で暴力がなく安心して外出できること。学校をやめる友達がいなくて、白髪になるまで長生きすること。明日が楽しみであること。

ワールド・ビジョンが世界6カ国646人の子どもたちに、「『豊かないのち』とは？」と聞いたときの答えの一部です。どれもなんと端的で、そして真実なことか。人間が生きるうえで何が大切なのか、一番わかっているのは子どもたちかもしれません。この子どもたちに、紛争を繰り返し、貧困を解決できない大人はどう見えているのでしょうか。私にとっての豊かないのちを考えつつ、一人ひとりが描く豊かないのちの実現を願う日々です。